



新型コロナウイルス後の医療システム および働き方のあり方について調査

商学部
経営・流通学科
教授

浅川 哲郎



研究シーズの紹介

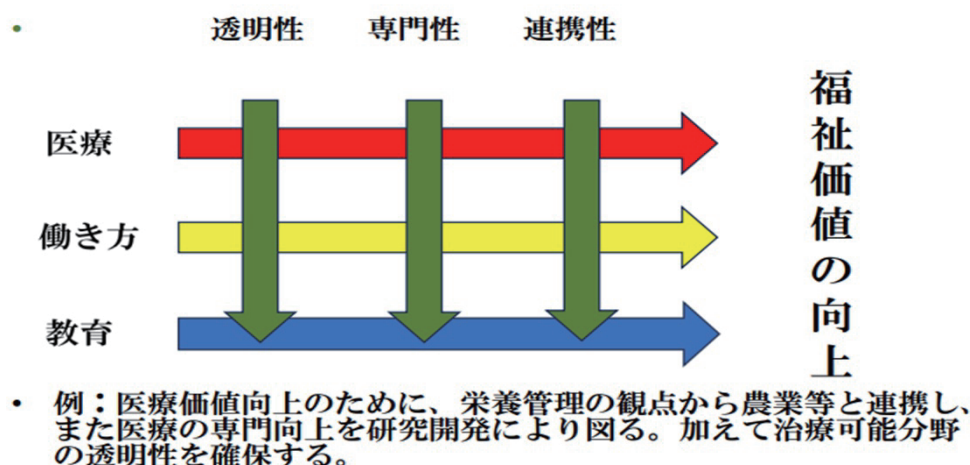
本研究は、市民が新型コロナウイルス流行後にどのように働き方を変化させたか、またコロナ禍の中で医療情報をどのように入手したか、を調査することで他の同様なベッドタウンの都市の福祉システムの構築にも寄与する。具体的には令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、医療システムや働き方も新しい展開に

なると予想される。医療システムに関して5類後は特別対応をやめ、通常医療への移行に踏み出すことになり、検査等自己負担部分が増加することになる。また働き方に関してもオフィス出社回帰が指摘されるが、ひとつの働き方として定着してきたテレワークを採用し続ける際の工夫についても検討されることになるはずである。



「5類」移行

- かかりつけ医や遠隔医療等の新しい医療システムが試される。
- 働き方においてはテレワークの採用継続が検討される。



期待される活用シーン

- 新しい機器を使ってより良い医療を提供できないか？（医療機関や行政）



遠隔医療を通して、アフターコロナにおいても効率的・効果的な医療を提供できる。



- コロナ禍の最中にはテレワークが流行したけど、今後、利用する条件はなんだろう？



テレワークを用いる際の条件を提供できる。

